

信州の環境にやさしい農産物認証農産物栽培事例(もも)

認証取得者氏名	林 敬夫	認証番号	50-00179	地事名	下伊那
地域(標高)	高森町山吹(600m)				
土壌(土性)	黒ボク土壌				

項目	生産計画の内容		補足メモ
(1)品目	もも (品種: 日川白鳳・あかつき・川中島白鳳)		
(2)作型名	普通樹 斜立仕立て		
(3)面積	17 a		
(4)栽培戸数又は労働力	2人		
(5)栽培期間	平成28年3月 ~ 平成28年9月		
(6)収穫期間	平成28年7月5日頃 ~ 平成28年9月5日頃		
(7)収穫量	H27実績	1,900 kg (うち出荷量: 1,900 kg)	(10a当たり収量)
	H28計画	2,000 kg (うち出荷量: 2,000 kg)	(10a当たり収量)

1 栽培 状況	(1)土づくり	牛糞堆肥を毎年施用(2000kg/10a)している。ケイ酸カリや苦土、果樹のめぐみ、米ぬかを連年施用。																																			
	(2)施肥	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機入りの配合肥料と鶏糞を使用することで化学由来の窒素を抑えている。 <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 土づくりに力を入れることで、土の活力を高めることにより吸肥力が増し、化学肥料を減らすことができる。 																																			
2 栽培 方法	肥料の施用状況																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料の種類</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th>窒素 うち化学由来</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フルーツみなみ II</td> <td>40</td> <td>4.8</td> <td>3.9</td> <td>2.4</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>発酵鶏糞(シモエダ)</td> <td>75</td> <td>1.6</td> <td></td> <td>3.5</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>牛糞堆肥(野神堆肥)</td> <td>2,000</td> <td>11.0</td> <td></td> <td>18.6</td> <td>16.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,115</td> <td>17.4</td> <td>3.9</td> <td>24.5</td> <td>18.05</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>地区慣行施肥量(kg/10a)</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>75.7</td> </tr> </table>		肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)			窒素 うち化学由来	リン酸	加里	フルーツみなみ II	40	4.8	3.9	2.4	0.8	発酵鶏糞(シモエダ)	75	1.6		3.5	1.05	牛糞堆肥(野神堆肥)	2,000	11.0		18.6	16.2	合計	2,115	17.4	3.9	24.5	18.05	地区慣行施肥量(kg/10a)	16	低減率(%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																																			
		窒素 うち化学由来	リン酸	加里																																	
フルーツみなみ II	40	4.8	3.9	2.4	0.8																																
発酵鶏糞(シモエダ)	75	1.6		3.5	1.05																																
牛糞堆肥(野神堆肥)	2,000	11.0		18.6	16.2																																
合計	2,115	17.4	3.9	24.5	18.05																																
地区慣行施肥量(kg/10a)	16																																				
低減率(%)	75.7																																				

(3)病害虫防除

化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術

- ・ 薬剤の散布を考え剪定を行う（樹の内側に枝を作らない、重なり枝を作らない）薬剤の死角ができないように注意する。丁寧な薬剤散布を心がける。
- ・ 交信攪乱剤コンフューザーMMの使用
- ・ 黄色蛍光灯によりヤガの被害を軽減している。

技術を導入する際の考え方

- ・ ダニ剤を極力使用せず、土着天敵の活動を大切にする。
- ・ 果実の進み具合により、病害虫の発生状況、天候等に応じて臨機に薬剤を選択する。
- ・ 春期400ℓ、夏期600ℓと薬液量を増やす

病害虫防除の内容

	使用農薬名	早生	中晩生	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外力カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫
殺菌剤	① ICボルドー412	○	○	33	1	1	1	1		17	せん孔細菌病
殺菌剤	② チオノックフロアブル	○	○	500	1	2	2				黒星病、縮葉病他
殺菌剤	③ アグレプト水和剤	○	○	1,000	1	1	1				せん孔細菌病
殺菌剤	④ デランフロアブル	○	○	600	1	1	1				黒星病、灰星病他
殺菌剤	⑤ マイコシールド	○	○	1,500	1	2	2				せん孔細菌病
殺菌剤	⑥ オンリーワンフロアブル	○	○	2,000	1	2	2(1)				黒星病、灰星病他
殺菌剤	⑦ ベルクートフロアブル	○	○	2,000	1	2	2(1)				黒星病、灰星病他
殺虫剤	⑧ スプレーオイル	○	○	50	1	1	1	1		12	アブラムシ、カイガラムシ
殺虫剤	⑨ バリアード顆粒水和剤	○	○	4,000	1	1	1				アブラムシ、シクイムシ類他
殺虫剤	⑩ モスピラン顆粒水和剤	○	○	4,000	1	1	1				アブラムシ、シクイムシ類他
殺虫剤	⑪ ダントツ水溶剤	○	○	3,000	1	1	1				カメムシ類他
殺虫剤	⑫ サムコルフロアブル	○	○	5,000	1	1	1				シクイムシ、ハマキムシ類
殺虫剤	⑬ スカウトフロアブル		○	2,000	1	1	1(0)				シクイムシ類
除草剤										3	
						早生	14	2		32	
						中晩生	17	2		32	

() は早生種

農薬の使用回数	12【早生】 15【中晩生】
地区慣行農薬使用回数(kg/10a)	32【早生】 32【中晩生】
削減率(%)	62.5【早生】 53.1【中晩生】

(4)雑草防除

- ・ 除草剤を使用せず、機械除草を行う。

(5)その他特記事項

- ・ 病害虫の発生状況、天候に応じて臨機に防除に努める

3 販 売 状 況	(1)主な販売地域	町内の直売所等
	(2)販売方法	消費者への直接販売(贈答)、農協、町内直売所等
	(3)県認証の活用方法	直売所や宅配便等に使用1000枚
	(4)実需者や消費者の反応、メリット	取引先が認証農産物を取り扱っており、認証農産物の需要がある。 容器包装類にシンボルマークを表示してアピールしている。

始めた動機	農事組合法人 増野に所属し、組合全体で減農薬に取り組んでいる中で、化学肥料と化学合成農薬を50%削減した環境にやさしい農産物認証を知り、モモ・ナシ・りんごで認証取得を行った。
コメント	農家の増野の仲間とともに、10年ほど前から減農薬栽培の取り組みを実践している。今年、J-GAPを取得し環境にやさしい農業への更なる取り組みにつなげたい。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
栽培管理	剪定作業			←→			摘蕾			人工授粉			←→			摘果			←→			日川白鳳収穫	あかつき収穫	川中島白桃収穫				基肥・堆肥施肥								
病虫害防除	早生							⑧	①	②	③	⑨	④	⑤	⑩	⑪	⑥	⑫	⑦																	
	中晩生							⑧	①	②	③	⑨	④	⑤	⑩	⑪	⑥	⑫	⑦	⑬	⑥	⑦														
土づくり施肥	牛糞堆肥等有機質肥料中心の施肥を行う																																			

ここがポイント！

- 黄色蛍光灯、コンフューザーMMの使用により防除回数を減らす。
- ダニ剤の使用を少なくし土着天敵の密度を上げる
- 土づくりの徹底により根の活性を促す。

<栽培状況等の写真>



収穫期を迎えたあかつきと、林敬夫氏。



シルバーマルチを敷いて1週間後に収穫となるため4日ほどずらせて、収穫期の分散を図っている。